

E.L.F.

EQUALITY

LIBERTY

FRATERNITY



こんねんど
今年度は
こんなこともしました。



なつやす づく たいけん
夏休み!おいでよパン作り体験 1
こうぼう
～ぱん工房かたつむりってどんなところ?～



「それって、決めつけじゃない?!」 5

こんねんど
今年度は
こんなこともしました。



だいがくせいしゅたい じんけんけいはつ
大学生主体による人権啓発イベント 6



今年度も多くの事業を実施していますが、
 エルフ91号ではその中から特に2つの事業を紹介します。

今年度はこんなこともしました

「夏休み!おいでよパン作り体験～ぱん工房かたつむりってどんなところ?～」

を開催しました。

2024年8月3日(土)、海南市にある就労支援施設
 「ぱん工房かたつむり」にて、こどもたちに障害のある人
 の人権を正しく学んでもらうため「夏休み!おいでよパン
 作り体験～ぱん工房かたつむりってどんなところ?～」を
 開催しました。午前と午後の二部制で実施しましたが、ど
 ちらも定員を超えるお申し込みがあり、大変好評をいた
 だきました。



社会福祉法人 一峰会 ぱん工房 かたつむり (就労継続支援B型事業所)

障害のある方々の想いと働く力を支える就労支援事業所です。店舗を持たないパン屋として、安心・安全・健康に配慮したパンを移動販売などで提供しています。

住所 〒642-0023 和歌山県海南市重根1778

HP <http://katatsumuripan.com/>



パン作り体験

施設の利用者さんから優しく指導を受けながら、パン作りをしました。



利用者さんが講師として参加してくれて、
 普段の「かたつむり」の様子を話してく
 れたり、パン作りの実演をしてくれたり
 したよ。



「かたつむり」ならではの取り組みについて

パン作りをしながら、「かたつむり」で実践されている「誰もが働きやすくなる工夫」について教わりました。例えば、袋詰め作業では、蜜が塗られたパンを袋に入れる際に、袋の入口に蜜やクリームが付くと封がしにくくなるので、ホームセンターで揃えた材料を使って、蜜が袋の入口に付かないようにする道具を自作されていました。また、食品用ラベルを袋に貼る際に位置がズレないようにする道具も作成されていました。こどもたちもこの道具を使い、上手に作業ができました。



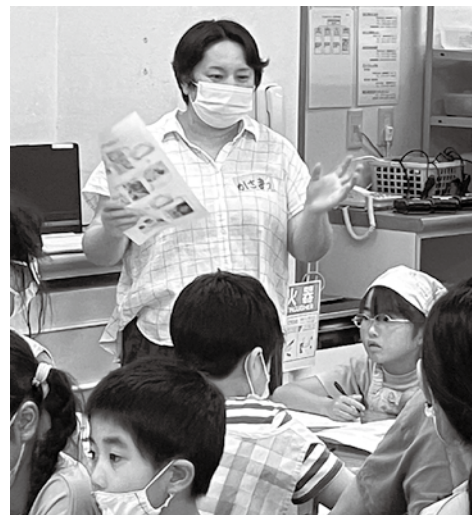
パンの蜜やクリームで袋の入口が汚れないようにする道具を使っているよ。

所長 笠松 彩さんのお話

利用者さんの普段の仕事について教わりました。「かたつむり」のモットーは「働いて笑顔に」です。楽しみながら働くことで、地域の方々や家族も笑顔になれることを目指しているそうです。仕事だけでなく、休日の遊びも大切にされています。利用者さんの中には、一人で出かけるのが難しい方もいらっしゃいます。そこで、利用者さん全員で旅行に出かけたり、遊びやイベントを充実させているそうです。今年は泊まりの旅行が計画されています。

「一生懸命働き、休日にはたくさん遊ぶ」ことが生きがいややりがいに繋がるということを、「かたつむり」から学ぶことができました。

利用者さんの笑顔が社会を明るくするのは素敵なことですね。



センター職員による人権ワーク

講師や利用者さんから教わった、「誰もが暮らしやすい環境づくり」「助け合いの大切さ」を復習しました。それぞれが、イベントを通じて感じたことを参加者全員で共有しました。

しょうがい うむ ねんれい かんけい だれ
 障害の有無や年齢に関係なく、誰
 もが「ありのままの自分」で生活
 できるといいね。



ぱん工房かたつむりでは、視覚に障害のある方や車いすを使用される方、作業スピードが違う方など、様々な方が働いています。全員が活躍できるよう、多くの取り組みをされています。例えば、細かい作業が苦手な方をサポートするための道具を自作されています。この道具のおかげで、障害のある方もスムーズに作業を行えるようになりました。この工夫は障害のある方だけでなく、初めてパン作りをすることもたちにも役に立ちました。工夫された道具を使うことで簡単に、そしてきれいに作業を進めることができました。このように、多くの方が使いやすくなる工夫が大切です。障害の有無や年齢などの個人差に関係なく、すべての人が快適に生活できる環境を整えることで、誰もが自分の能力を最大限に発揮できるようになります。

しかし、環境を整えるだけでは十分ではありません。周りの助けや思いやりも欠かせません。私たちには得意なことで苦手なことがあります。苦手なことに直面したときには、努力不足だと自分を責めたり、すぐに諦めたりするのではなく、周りの人に助けを求めすることも重要です。「かたつむり」でも「全部できなくても大丈夫。苦手なことは得意な人に助けをもらおう。困った時は助け合う。」という姿勢を大切にされていました。

誰もが「ありのままの自分」で生活できる工夫や助け合いの精神の大切さを、ぱん工房かたつむりで教わりました。



ご参加していただいた皆さんからの感想の一部を紹介します。



※こどもの感想は原文ママ。

しょうがいがある人でも、いろいろなことにとり組めば、パン作りでも、何でもできる！！
わたしじゃできないことも、練習すれば、だれでもできるようになるということがわかった。

しょうがいの人などでも楽しく仕事していることがわかった。
だれでも平等に仕事できるのはいいと改めて思いました。



みんなで協力しているのがわかった。



※大人の感想は一部修正しています。



皆さんが楽しそうにお仕事をされている姿が印象的でした。丁寧に作業を進めながらパンを作っている様子が伝わってきました。また、苦手なことも協力し合って分担しながら作業されている姿が素敵でした。

皆さんがとても優しく、笑顔で接してくださったので、日頃から良い環境で過ごしているのだろうと思いました。また、誰もが得意なことや不得意なことがあり、それぞれが助け合う姿にとっても共感しました。



所長さんが「それぞれのペースで、できることをする」とおっしゃっていた言葉が印象に残っています。これからもっとお互いの違いを認め合う社会が広がると良いなと思います。

利用者の皆さんが分担しながら、一つ一つの工程を丁寧に取り組んでいる様子がよくわかりました。これからもおいしいパンを楽しむにしています。



パン作りを通して、たくさんの触れあいことができました。
人との触れあい、パン屋さんとの触れあい、パン自体の触れあい・・・！！
娘も最初緊張してたけど、パン作りを通して自然に和んでとても楽しんでいました。
今度、家族でパンを買いに行きたいなと思います。ありがとうございました。





まんが：和歌山市立和歌山高等学校
3年生 小川 涼香さん

国際化の進展に伴い、日本で生活する外国人は年々増加しており、その国籍や言語も多様化しています。和歌山県でも8千人以上※1の在留外国人が生活しています。皆さんも一昔前と比べて、学校や地域、職場などで外国人と接する機会が増えてきたのではないのでしょうか。また、人との出会いだけでなく、海外の音楽や映画、食べ物などをいつでもどこでも気軽に楽しめます。異文化に触れ、新しい気付きや価値観を得ることは、豊かな人生を送る手助けとなることでしょう。

一方で文化の違いなどにより、誤解や偏見を持ってしまふこともあります。左の4コマ漫画のように、「外国人はゴミ出しのルールを守らない」と決めつけることは避けたいものです。思い込みは相手を不快にさせるだけでなく、尊厳を傷つけ、また差別意識を生じさせることになりかねません。

「そんなことを言っても、私の近所にゴミ出しのルールを守らない外国人がいるんだ。」という声もあるかもしれませんが、確かに、ルールを守らない人は存在しますが、それは外国人に限りません。外国人も日本人と同じで、様々な性格や考え方を持つ人がいます。また、ゴミ出しのルール違反は、意図的なものでなく、単にルールを知らない場合もあります。ルールを理解してもらうために、例えば回覧板の案内にふりがなを入れたり、挿絵を使って視覚的に理解しやすくなる工夫をしてはどうでしょう。本当に困っている人は自分達ではなく、外国人の方かもしれません。

もし、地域で困っている外国人がいたら、積極的に声をかけてみてください。時には、ルールや文化を教えるあげることも必要でしょう。相手のことを正しく知り、自分のことを正しく伝えるためのコミュニケーションは、日本人にも外国人にも求められています。大切なことは、国籍や人種などで人を判断するのではなく、「その人自身」を知ることはないのでしょうか。

※1 法務省在留外国人統計（令和5年6月末）



👉 **今年度はこんなこともしました**

「**大学生主体による人権啓発イベント**」を開催しました。

和歌山信愛大学の学生15人が主体となって、人権啓発イベントを企画・実施しました。「大学生の若い発想と力を活かした啓発事業」という思いから始まった事業です。2023年5月から約1年半の間に10数回の企画会議で集まり、イベントのテーマや内容を考え、準備を進めてきました。活発な意見交換を経て、大学生ならではの新しい感性を活かした4つの事業が実現しました。

タイトル▶ **自分の好きを放とう！！**

～ファッションショー&講演会～

日時▶ 2024年9月23日(月・振休)

14:00～16:00

場所▶ 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛1階大ホール

講師▶ 倉嶋麻理奈さん

(NPO法人チーム紀伊水道理事長)



内容▶ 性別による「らしさ」に縛られず、自分が自分らしくいられるファッションを選び、表現することの素晴らしさを伝えるイベント。講師や主催の学生を含めた5人のモデルが登場するファッションショーと講演会の2部構成で実施した。

このイベントを企画運営した卒業生と大学生の感想を紹介します。

- 今回のイベントで、出演者一人ひとりが自分の好きを放ち、自分の考えをパネルディスカッションで表明する事ができ、とても意味のあるイベントになったと思った。ファッションショーのモデルとして出演された方がお話しされていた、「女性に似合うメンズ服はあるのに、男性に似合うレディース服はないのかと思った」ということを聞いて、一人ひとりが自分のアイデンティティを認め、自分の好きを十分に放つ為には、ファッション業界の構造など、社会の様々な仕組みを変えていく必要があると感じた。それには、社会の構造に違和感を抱いた人たちが声を上げ、行動を起こす事が必要だと思った。また、今回のイベントについてのネットニュースでは賛否両論、さまざまな意見があったが、それらを受け止め、マイノリティーの方を尊重し、誰もが過ごしやすい社会を目指すという考えを押し付けることなく、様々な方法で広めて、理解に繋げていきたいと考えた。

- 私が人権啓発活動イベントを通して、学んだのは人権とは自由であることです。今回の活動やイベントに至る経緯で得た知識から、人権とは定義がある堅苦しいもの



ではなく、一人ひとりが自分らしく生きるためにある権利であり、それぞれが自分らしく生きるために自由に持つことができる。そして、それぞれの権利をお互い尊重することで人権侵害がされない世界に近づくのかなと思いました。この経験を活かして、これからは自分らしく生きる権利を持つ人たちの権利や生活を尊重していければなと思います。

- 私は、今回の活動を通して、一人一人の「好き」を尊重することの大切さを学びました。企画会議の中で、世の中にある様々なしぐらみによって自分自身の「好き」を表現できずに悩んでいる人が存在することを知りました。「男らしさ」や「女らしさ」ではなく、一人一人の「自分らしさ」が尊重される世の中にしていくために、まずは自分自身が今後も引き続き共に生きる人々の「その人らしさ」について関心を持ち続けたいと思います。

タイトル▶性のあり方はグラデーション

～パートナーシップ宣誓制度～

日時▶2024年10月19日(土)

14:00～15:30

場所▶県民交流プラザ和歌山ビッグ愛8階会議室801

講師▶安西美樹さん(LGBTQと愉快的仲間たち代表)

高瀬和代さん(性暴力やデートDVなどの被害者
セルフヘルプグループ ココニハ代表)

内容▶性のあり方に関わらず、誰もが希望する相手とともに生きていくことができる社会について考えた。

1部は講演会、2部は講師と学生による対談を実施した。



このイベントを企画運営した学生の感想を紹介します。

- 私が人権啓発イベントを通して最も強く学んだことは、「知る」ことの大切さです。当初、人権について詳しく知りませんでした。講演をしてくださった方々の話を聞いて、今まであった自分の思い込みが気付くきっかけになったとともに、より関心を深めたいという気持ちになりました。今後社会に出た際は、人と関わることで更に増えると思うので常に様々な情報を知ること意識し、人との繋がりを大切にしていこうと思います。
- 今回の「性はグラデーション」のイベントで、最も学んだことは他者を受け入れることの大切さです。講師の安西さんと高瀬さんとの対談の際に、私は、カミングアウトをした際の周囲の反応について質問し、率直なお考えを示していただきました。そこで、

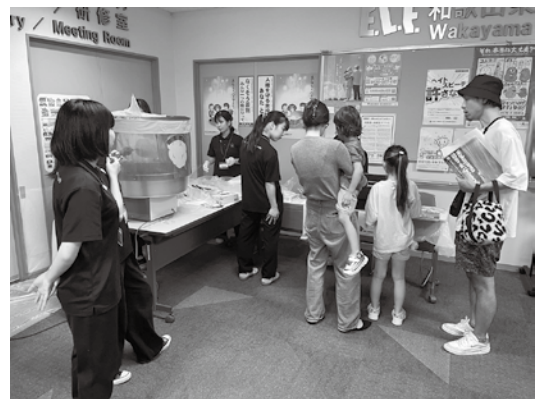


過去の私の言動は相手への配慮や尊重が欠けていたことに気づきました。今後、相手の気持ちをしっかりと受け止め、まずは「ありがとう」と伝えることを大切にしたいと思います。

- この取り組みにはゼミの関係で参加することになり最初は「『人権』って何なんだろう。」「これから何をしていくのだろう。」と不安でいっぱいでした。しかし、アイスブレイキングや講師の方に来ていただいて話を聞くことをして、少しずつではありますが人権について知っていくことができ最初にあった不安は消えました。自分の興味のあることについてのイベントを行うことができ、達成感と共にこれからも人権を身近に考えていく必要があると思いました。

事業名：人権わたがし

9月23日と10月19日に和歌山ビッグ愛にて、カップ入り（4色入り）の「人権わたがし」を販売した。カップにははじめに3色のわたがしが入っていて、最後の1色は購入者に好きな色を選んでもらった。「女の子といえばピンク」というように性別と色を結びつけるのではなく、自分の好きな色を



選ぶことで、自分の気持ちを尊重することの大切さを気づくきっかけを提供した。

このイベントを企画運営した学生の感想を紹介します。

- 大学3年生からの約2年間、和歌山県人権啓発センターの方と一緒に人権について考える機会をいただけたことで、人権についての理解や学びを深めることができました。私たちのチームはわたがしを販売し、“好きな色を好きでいればいい”をテーマにし、多くの人に男女問題をフライヤーで伝えたい言葉を考え、発信するようにしました。来春から教員になるため、この経験を活かして、子どもたちへの人権教育をしっかりと行っていきたいです。
- この2年間の人権イベントを通して、一人一人の大切さ、多様さについて学ぶことができました。私は、人権わたがしということで、女性だからピンク色、男性だから青色じゃなくて自分の好きな色を選んだらいいんだよと自由な考えを発信できたのではないかと思います。社会に出た際にこの人権イベントで得られた学びをここで終わらせるのではなく、多様性などといった考えを広めていきたいです。
- 初めは人権について詳しく考えたことがなかったですが、人権イベントを企画から考え、実施していく中で、今までより深く考える機会となり、貴重な経験をさせていただきました。私は、人権わたがしをさせていただき、男の子・女の子関係なく自分の好きな色を選ぼうということをして沢山のみなさんに伝えたいという思いで取り組みました。これらの取り組み



みによって、一人でも多くの人々に人権について考えてもらう機会が増えたら嬉しいです。

タイトル▶「地域の中の誰もの居場所

～私も子ども食堂へ行っていいの?～」

日時▶2024年11月24日(日)

14:00～16:00

場所▶和歌山城ホール4階大会議室

講師▶湯浅 誠さん(認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長)



内容▶「子どもだけのため」「貧困家庭のため」と思われがちな子ども食堂だが、実は

もっといろいろな役割を果たしている。子ども食堂に関する疑問や役割について、講

演と学生との対談を通じて楽しく学んだ。

このイベントを企画運営した学生の感想を紹介します。

- この人権イベントの企画・運営をふりかえり、自分自身が成長できたと感じたことは、人前に立って話げできたという事である。私は、もともと人前に出ることが苦手で、今回のイベントも表には出ず、裏の仕事ばかり引き受けていました。しかし、今回の人権イベントで湯浅さんへの質問者のトップバッターという役をやらせていただき、初めて不特定多数の方の前で話をする機会をもらい、自分にとってもとても良い経験ができたと感じています。
- 私はこのイベント企画に参加するまで人権という言葉を知ってはいましたが、そこまで深く考えたことはありませんでした。企画を考えていくうちに今まで誰かが伝えてくれていたから私は何もしなくていいだろうと思っていました。でも実際に企画したり、深めたりしていくうちに誰かに伝えたいと思うようになり今では人権について少し詳しくなったことに自信を持っていられます。これから社会人になりますが人権意識を忘れずがんばります！！
- 私は今回の活動に取り組んだことで、世界には自分も含め多様な人々がいること、それに伴った課題が今もなお存在することを学んだ。イベントを通して、当たり前前に存在する多様な人々のことを理解し、関わることで、より深く人権意識の大切さを学ぶことができた。現在の社会が抱える課題に対し、まず自分には何ができるのかを考え、一つでも実行してみることが、誰しもの人権が尊重される世界への第一歩だと学ぶことができた。
- 人権イベントの企画・運営を通じて最も深く学んだことは、話し合いの大切さだ。知識や経験、疑問を互いに出し合う中で、自分の考えと違った視点から物事を捉えることができ、新たな気づきを得た。その気持ちを周りに発信する意識を持つことで、やり遂げた



時の達成感が高まった。今後社会に出た際にこの学びを活かして、自分の意見を持つだけでなく発信し、相手の考えも受け止めた上で、目の前のことと向き合っていきたい。



- 私が今回の活動を通して最も深く学んだことは、「人権問題は他人事ではない」ということだ。異なる背景や価値観をもつ人の話を聞いていく中で、これまであまり意識することがなかった人権問題が日常生活の身近なところに存在することを実感した。今後社会に出た際には、この経験を活かし、一人ひとりの多様な声に耳を傾ける姿勢を心がけ、社会にある様々な人権問題を自分自身の問題として捉え、行動していきたいと考える。
- 今回の活動を通して、人権とは「誰にでもあり、奪われないもの」であると学んだ。社会を構成するすべての人が人権問題に関わっていると捉えられる。問題を抱えている人たちだけが当事者ではなく、人権問題を自分事として捉えることが重要である。あらゆる人が互いに心を寄せ、包摂し合い、問題解決に向かう必要があると考える。これまでの学びをさらに深め、教師として高い人権感覚を持って子どもたちと関わっていきたい。

相談 秘密
せうだん びみつけしゆ
無料 厳守

人権ホットライン

人権でんわ相談

さまざまな問題や悩みを抱える
相談者に助言を行い、
自身が主体的に問題を解決する
ための支援を行います。

一般相談

①開設日時/毎週月曜日～金曜日

午前9時～午後4時

(祝日・12/29～1/3は休み)

②相談方法/電話相談

TEL 073-421-7830

弁護士による無料法律相談

①開設日時/偶数月 第2・第4木曜日

奇数月 第2土曜日・第4木曜日

午後1時～4時(当日が祝日の場合はその翌日)

②相談方法/面接相談・オンライン相談

TEL 073-435-5420 (お電話でご予約ください)

日頃、生活の中で人権に関するお困り事などがありましたら、
お気軽にご相談ください。

2024(令和6)年度法律相談実施日

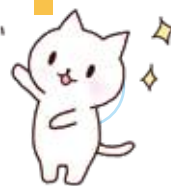
2025年1月11日・23日, 2月13日・27日, 3月8日・27日



2024 [令和6]年度

和歌山県人権啓発ポスターコンテスト

最優秀・優秀作品



さいゆうしゅうしょう
最優秀賞



ちゅうがくせい
中学生の部

いわでしりついわでたいにちゅうがっこう ねん
岩出市立岩出第二中学校 3年
やま した の あ 蒼さん

ゆうしゅうしょう
優秀賞



しょうがくせい
小学生の部

わかやましりつなぐさしょうがっこう ねん
和歌山市立名草小学校 2年

しま 嶋 こう 康 勝さん

ゆうしゅうしょう
優秀賞



こうこうせい
高校生の部

わかやまけんりつわかやまこうとうがっこう ねん
和歌山県立和歌山高等学校 1年
にし かわ りん 凜さん



エ ル フ
E.L.F.

こうえきざいだんほうじん わ か やまけんじんけんけいはつ
公益財団法人 和歌山県人権啓発センター

Equality / 平等 Liberty / 自由 Fraternity / 友愛

- お問い合わせ 〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目1-2 和歌山ビッグ愛2階
TEL 073-435-5420 FAX 073-435-5421
URL w-jinken.jp/ E-mail mail@w-jinken.jp
- 開館時間 9:00 ~ 17:45 *人権ライブラリー・人権ギャラリーは、
9:30 ~ 17:00
- 休館日 日曜・祝日、年末年始 (12/29~1/3)
- 交通案内 JR 和歌山駅から徒歩:約 20分、バス:約 5分「手平出島」下車
JR 宮前駅から徒歩約 7分
南海和歌山市駅からバス:約 20分「手平出島」下車
有料駐車場あり 100円/50分 (30分以内無料)



2025年1月 発行

この印刷物は地球環境に優しい
植物油インキを使用しています。